

21. その他

文献

利根川優香, 内坂園子, 竹村絵美, ほか. 足浴後の下腿皮膚温の変化 マッサージを行った場合と行わない場合. *長野赤十字病院医誌* 2004; 17: 116-8. 医中誌 web ID 2004208587

1. 目的

足浴直後のマッサージ併用による保温効果の有効性評価

2. 研究デザイン

同時並行比較試験

3. セッティング

長野赤十字病院

4. 参加者

健康成人、20～21 歳 (平均年齢不明)

5. 介入

Arm 1 : マッサージ併用群 3 人 (平均年齢 不詳)

Arm 2 : マッサージ非併用群 3 人 (平均年齢 不詳)

6. 主なアウトカム評価項目

赤外線サーモグラフィーにより測定した皮膚温

7. 主な結果

1) 足先 (第 3 足指) および下腿前面び皮膚温は、マッサージ併用群および非併用群ともに、すべての測定時点 (5 時間後まで) で足浴前より上昇を持続。安静時と 5 時間後の第 3 足指皮膚温 (°C) は併用群 3 例 : 18.4→21.1, 18.1→24.3, 19.7→28.3。足浴のみ 3 例 : 22.0→24.2, 20.3→24.1, 20.8→22.6 であった。同様下腿前面皮膚温 (°C) は併用群 3 例 : 28.6→32.5, 27.2→30.7, 28.6→32.2、足浴のみ 3 例 ; 31.4→33.1, 30.8→32.8, 31.0→32.1 であった。例数が少なく統計処理の記載無し。

2) マッサージ併用群において、非併用群に比べ保温効果が高い傾向を認めた。

8. 結論

足浴後にマッサージ (足部、10 分) を行うことで、保温の持続効果を高める傾向がある。

9. 論文中の安全性評価

記載なし。

10. Abstractor のコメント

本研究は、足浴にマッサージを介入することによる保温効果について検討しており、足浴後 5 時間まで長時間の検討を加えている点は評価できる。しかし、マッサージ群および非併用群ともに 3 例ずつと例数が少なく、一定の結果を出すには不十分である。またマッサージ併用群では、施術時に下腿を水平にしている時間帯 (10min) があり、非併用群に於いても同様な下肢位を設定する必要があると考えられる。さらに皮膚温測定部の近傍の皮膚血流も同時に測定できると、信頼性が高まると考えられる。

11. Abstractor and date

緒方昭広 2011.12.12